

アジア圏で高まるUDFへの関心

高齢化率が7%を超えてからその倍の14%に達するまでの所要年数を見ると、日本は24年であり（現在は高齢化率27.3%）、フランス（115年）やアメリカ（72年）など欧米諸国に比較して、非常に速い速度で進みました。一方、日本以外のアジアの国々を見ると、韓国が18年、シンガポールが20年、中国が23年など、今後日本以上の急カーブで高齢化が進むことが予測されています（平成29年版高齢社会白書－内閣府）。

このような中、数年前から主に韓国の食品メーカーなどから協議会にお問い合わせをいただく機会が増えてきました。

この雰囲気は顕著に出始めたのは平成23年ごろでしたが、韓国の産官学において今後同国での介護食品の仕組みなどを考えていくための初の公式ミーティング（とうかがいしました）に招かれた経緯がありました。同国では特に、世界的にも先進的に取り組んでいる日本の介護食品として、UDF に対して非常に高い関心を持っていただいたようです。その後も同国の官庁や企業から年に数件訪問を受ける機会もございましたが、おそらく、食品メーカーや大学などの研究機関へも同様の問い合わせが増えているのではと思われます。昨年の訪問件数については、例年よりも一層の多さを感じましたが、毎週のように訪問を受けた月もありました。また、属性としては、これまでは官庁や大学をはじめ民間企業関係者が主でしたが、去年はこれに調査会社（コンサルタント業含む）やテレビ局も加わってきました。場面が進展してきたことをうかがわせます。このような雰囲気は、日本で開かれている介護食品に関する学会や展示会にも及んでおり、韓国の他、台湾などからも参加者が増えているのを実感します。

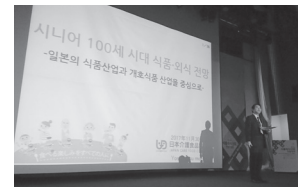
この折、11月30日にソウル市で開催された「2018食品外食産業の展望大会（2018 Korea Food Outlook）」という催しに招かれ、森会長がUDFをタイトルに含めた基調講演を行いました。本催事は韓国農水産食品流通公社（同国の農林水産省にあたる）が主催となり、同国の食品産業関係者全般が集う催事とのことでした。

このように、アジア圏の国々の日本の介護食品に

対する注目度から、我々協議会や食品メーカーにとって、近い将来、介護食品がビジネスとして国際的に急速に進展する可能性を秘めているとみておく必要性を感じます。



会場の様子



森会長講演の様子

【会議、催事等の予定】

- 2月2日（金）平成29年度事業進捗状況報告会（株明治会議室）
- 2月7日（水）第6回技術委員会（オリンピック神田会議室）
- 2月15日（木）第4回容器包装研究会（本会会議室）
- 2月16日（金）第4回業務用WG（本会会議室）
- 2月22日（木）～23日（金）JSPEN 2018（パシフィコ横浜）

【UDF 商品登録状況（1,950品目・12月末現在）】

	区分1	区分2	区分3	区分4	とりみ調整	合計
乾燥食品	0	3	12	0	89	104
冷凍食品	288	237	659	29	0	1,213
常温食品	141	157	213	121	1	633
合計	429	397	884	150	90	1,950

【会員の異動（12月）】

新規加入1件：ネスレ日本(株)
計73社（12月末現在）。

◎日本介護食品協議会では会員企業を募集しています。協議会とユニバーサルデザインフードについては事務局までご連絡ください。

事務局：東京都千代田区神田東松下町10-2
翔和神田ビル3階
TEL 03-5256-4804
FAX 03-5256-4805
<http://www.udf.jp/>